

テーマ：もし、自分の死が間近に迫っていると知り、最後に何か言葉を残すとしたら、どんな言葉を残すだろうか？

※使徒 7:60(ステパノ)

「主よ。この罪を彼らに負わせないでください。」

※2 テモテ 4:6-8(パウロ)

「私は今や注ぎの供え物となります。私が世を去る時はすでに来ました。私は勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです…」

「私は 86 年間キリストに仕えてきましたが、彼は決して私に対して悪いことをしませんでした。どうして、私を救ってくださった私の主を冒瀆することができましようか。…それゆえ、あなたの愛する御子、永遠なるイエスキリストによって、私は全てにおいてあなたを賛美し、誉めたたえ、あがめます。御子と聖霊と共に、栄光が今も、またこの先もあなたにありますように。アーメン。」(ポリュカルポス)

※2 サムエル 22:1

「主が、ダビデのすべての敵の手、特にサウルの手から彼を救い出された日に、ダビデはこの歌のことばを主に歌った。」

○神様に対するダビデの感謝(1-3)

※ピリピ 4:11,13

「乏しいからこう言うのではありません。私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。…私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。」

●なぜダビデは感謝を捧げたのか：三つの理由

1) 神様が _____ を与えてくださったから(4-19)

※マタイ 28:20

「見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」(cf. ヨハネ 10:28; ヘブル 13:5)

2) 神様が_____を与えてくださったから(20-29)

3) 神様が_____を与えてくださったから(30-45)

○神様に対するダビデの感謝(46-50)

○まとめ